

1. 期日 令和2年12月25日(金)

2. 内容

- (1) 学校経営計画
- (2) 学校教育自己診断
- (3) 本年度採択の教科書について
- (4) その他

3. 協議内容

**学校経営計画について(各委員からの主な意見)**

- ・子どもの姿をみていて、学校での姿と家庭での姿が同じであるようしっかりつなげていくことが大切であると思う。そのため、学校は保護者の悩みに迅速に対応していただく必要があると思うが、今年度は、PTAと協力し、専門家をおまねきし、保護者向け研修会を開催していただき、保護者の理解や啓発に積極的に取り組んでくださっていると思う。
- ・児童生徒一人ひとりの将来を見据えた内容である。これからも児童生徒の自立に向けてよろしく願いしたい。
- ・児童生徒のことを第一に、具体的によく計画されていると思う。「評価指標」は自己診断アンケートにおける肯定的回答率の目標を挙げておられる項目が増えている、その数字も項目ごとに違うところに取り組みへの熱意を感じる。
- ・今年度はコロナ感染がまだおさまらず、感染症対策にたいへん気を遣う日々が続いていると思うが、新教育課程並びにシラバスの完成をめざすことはたいへん重要だと考える。
- ・小中高一貫の具体的な内容、ポイントはわからないが、新たな教育課程に期待する。
- ・連動システムがどのようなものかわからないが、重要なポイントであり、ぜひ来年度の実施につなげていただきたい。
- ・前年度から大幅アップをめざすことはたいへんであるが、HPが充実していると感じている。
- ・保護者対象のアンケートについては、なかなか保護者としては学校教育に関わる機会が少なく、その意味では、教育活動への周知や理解を進めることが大切であり、そのための工夫が求められていると思う。その意味では、学校サイドの情報発信に力を入れることは、重要であると考え。
- ・「安全安心」がすべての前提となるため、引き続き、特に防災、セキュリティポリシー、人権尊重を徹底したいと考える。
- ・防災については、いつ、どこで起きるか予測ができないことであり、そのことを踏まえて、より実践的な防災計画となるように努めることが大切だと思う。その際、いかに保

護者を巻き込むかがポイントになると思う。

- ・個人情報の保護については、公立学校においても流出の事案が後を絶たない状況にあり、校外に情報を持ち出さないルールが設定されているにもかかわらず、毎年事案が発生していることを、職員一人ひとりが意識するような取り組みが求められている。
- ・人権教育においては、LGBTだけではなく、自身の障がいを含めて、人権を守る、人権を侵害された場合の行動について、指導の在り方を具体的にどう伝えていくのかといった研修が必要になると思う。
- ・地域に根ざしたキャリア教育の充実を期待する。
- ・保護者と教職員合同研修会により、保護者が先生方を身近に感じられるようになるとういと思う。
- ・本年はコロナ禍のなか、安心安全な環境づくりにたいへん苦勞されたと思うが、引き続きの安全対策をお願いする。また、子どもたちの障がい理解は必ず未来への拡大へとつながると思う。近隣校への出前授業の継続は、とても意義のある活動だと思う。
- ・保護者のニーズをとらえることは極めて重要であると思う。ついで、課題を解決するために学校としてどう取り組むのか。一見わがままに思えるニーズであったとしても、保護者の真意を聞き取る力をどうつけていくのか、職員一人ひとりの力を向上させることは大切であるが、チームで取り組む体制をいかに作り上げるかが、大切になると思う。
- ・職員の専門性は、対応力をつけていくことが大切になる。そのためには、首席の先生や指導教諭にいかに活躍していただくかがポイントになる。同様に、経験豊かな先生を適切に配置することによって、チームでの解決力を育成していただければと思う。

#### 学校教育自己診断について（各委員からの主な意見）

- ・保護者として、今年度のアンケートは内容がわかりやすく、回答しやすい形式になっていた。
- ・先生方のアンケートにおいて、新たに設定された項目において、肯定率が80%以上という結果は、とても嬉しく思う。PTAとしてもいろいろな形で学校と連携し、先生方の意欲につなげていけるよう、今後とも協力していきたい。
- ・保護者への質問については、毎年見直し、ニーズをくみ取れるように工夫する必要があると思う。なかなか学校教育に関わるのが少ない保護者であっても、関連項目を入れることで、保護者の意識をくみ取れるような工夫が必要だと思う。
- ・保護者へのアンケート数が少し減ったように感じた。圧迫感がなく、答えやすくなったように思う。ただ、「個別の教育支援計画」については、昨年は6つあったが、今年は2つで、質問が少し漠然としている印象を受けた。
- ・児童生徒の質問は、挙手や表情をくみ取ることで回答を得られるように、あるいは、絵で示すなど実施の仕方を工夫してほしいと思う。
- ・子どもたちが、「学校が楽しい！」と思ってくれることが全てだと思う。昨年より今年、今年より来年と一人でもそう思える子どもたちが増えてくれたらと願う。

- ・特に、教職員、保護者からのアンケート回収率を向上し、教職員から現状の課題に対する解決策を得られるようにできたらよいと思う。

#### **本年度採択の教科書について（各委員からの主な意見）**

- ・楽しそうな教科書で、子どもたちが楽しく学習できると思う。
- ・小学部の算数に「音の出る知育絵本」が選ばれていて、興味を引き出すのに良いと思う。タブレットを使った授業は多くのメリットがあると思うが、国語で溝をなぞってひら仮名を練習する教材等、アナログであるが、五感を使って学習するのは有効だったと思っている。
- ・高等部では、社会生活に身近な課題を取り上げているものが多く、生徒が関心を持って、取り組むことができるのではないかと感じた。
- ・電子教科書を使用する例などもあるのか教えてほしい。

#### **その他（各委員からの主な意見）**

- ・ここ数年徐々に学校の雰囲気明るく、開放的になり、先生方からも教育に対する覇気を感じる。特に、益子校長先生が着任されてからは、学校としてのめざす方向性がより明確に打ち出され、学校運営の中心となる先生方からも、校長のリーダーシップを感じられるようになった。まさしく、一体感を感じられる学校になってきたと実感している。学校経営計画をみても、古くて新しい課題に果敢に挑戦しながら、新しい取り組みにもバランスよく取り組んでいる姿勢に、障がい児教育への情熱を感じることができる。今後も、チーム難波支援として、学校が一体となって困難な課題に挑戦いただくと期待している。